

ホリホリの旅の絵日記

堀道広 文・絵
Hori Michihito

Vol.002

疲れた体と、ささくれた心に
間近に会える南紀白浜のパンダを



ほり みちひろ ●1975年、富山県生まれ。うるし漫画家。98年「月刊漫画ガロ」でデビュー。漆職人としての経験を生かし、金継ぎも手がける。最新刊は『おうちでできるおほか金継ぎ』（実業之日本社）。

敬愛するほりのぶゆき先生と交互に愛し……もとい旅しあうことになったこの連載、よろしく願います。「ほり」つながりの漫画家・堀道広です。「新幹線」といえば世代的にも、白と青の二色の「だんご鼻」でかわいなお顔の初代「0系」車両の印象が強いです。ところで二色でかわいい、といえば、やっぱりパンダですよ？（強引）

というわけで私は、現在五頭のパンダがいる和歌山のアドベンチャーワールドに行ってきました。正直、パンダに対する興味は南紀白浜の砂のように限りなくホワイトだった私園に入ってすぐに「桜浜・桃浜」姉妹の無邪気な姿に固定観念を打ち砕かれました。「え……か、かわいい……」と。想像した数倍パンダをしつかりと堪能できて、「パンダ欲」を満たすことができます。キリンにおやつをあげる体験も初めてしました。お会いした二人の女性スタッフも親切で、ここにいる動物たちが羨ましくなりました。

パンダに対する気持ちもオセロのようになって、前めりて大好きになっっている自分がいまいました。あ、オセロと言えば、パンダですよ！（最初に戻る）